第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	キャットです
タイトル	大学生にキャッシュレスを浸透させるには		
テーマ群	b）財政、金融		
メンバー	上田航平　大西康生　加藤大空　小谷竜也　小柳俊介　谷川大将　濵田知希 橋本拓磨　藤岡侑作		
研究計画内容	近年、新型コロナウイルス感染拡大問題もあり、これまでも浸透しつつあった消費者のモノ・サービス購入時のキャッシュレス決済・非接触化が加速している。しかし、日本は世界諸国と比べてキャッシュレス普及率が未だに 2 割程度と極めて低い。一方、世界ではキャッシュレス化が増々進み、アメリカや中国では 5 割程度、韓国では 9 割を超えており、世界と比較すると日本のキャッシュレス化は非常に遅れている。その理由としては、治安が良い、偽札の発行が難しいなどが言われている。また、欧米などの国では現金流通量や支払い文化により小さい頃から口座を開設し、カードを発行するというように若い世代からキャッシュレス決済を使用する国も少なくない。 日本国内の世代別で見ると若い世代のキャッシュレス普及率が極めて高いことが分かる。本研究では、若い世代の中でも特にキャッシュレス決済浸透が顕著であると我々が予想する大学生を対象とし、キャッシュレス決済の利用状況や利用手段、トラブル等の調査を行う。大学生はなぜキャッシュレスを使うのか、また使わない人はなぜ使わないのかをアンケートなどを通して調査し、大学生にキャッシュレスが浸透している理由を実証的に解明する。大学生のキャッシュレス率が高いことは我々の事前の予想通りであるとして、それが他の世代の生活とは異なる大学生活に固有の要因によるのか、それとも、現役大学生世代独特の慣習・文化的要因によるのかも可能な限り明らかにする。 本研究の成果は、若者と年配者との消費生活様式・慣習・考え方の違いを見つけ、その差を埋めることが社会にとってどの程度望ましいのか、また、差を埋めることがどの程度可能で、キャッシュレス化進展率を考察するための鍵となると考えられる。それは、政府が日本社会全体のキャッシュレス化促進を政策的に行う必要性や目標となる適切なキャッシュレス化率の水準・達成スピードを考え、また、それを実現する政策を設計する上で役立つと期待できる。		